

《生産機械技術科 アドミッション・カリキュラムポリシー》

機械技術者の仕事のやりがいは、自らが設計した「機械装置」が産業界で使用される、または製作した機械部品が「機械装置」に組み付けられ、装置として機能することにあります。

「機械装置」といっても、人工衛星、飛行機、自動車、家電、スマートフォン、食品等を自動で製造する自動機など様々です。先の例で、自身で設計や加工をしたエンジンが飛行機に組み込まれ空を飛ぶことを想像してみてください！どうですか？胸がワクワクしませんか？ 生産機械技術科が 関連する仕事は、機械設計者、機械加工技術者、機械保全技術者、生産管理技術者などがあります。生産機械技術科では、次のような学生を求めます。

- ・「ものづくり」や機械を触ることが好きで、身体や手足を動かし、0（ゼロ）から「機械装置」を作りだすことにチャレンジしたい学生。
- ・探究心旺盛で「機械装置」が機能するまで、妥協することなく設計や加工を追及したい学生。是非、一緒に「機械装置」の設計、製作をしませんか。

生産機械技術科では、ものづくりの原点である汎用工作機械の旋盤やフライス盤から、「コンピュータを駆使した設計・加工といったような最新のものづくり」までを通して、設計、加工、組立、調整という「ものづくり」工程の実践力を身に付けます。

一連の工程を学んだあと、集大成として行う総合制作実習では、チームでテーマや目標を定め、様々な装置や作品制作に取り組みます。まずは、コンピュータ上で設計を進め、画面上でどのような構造にしたらよいかを、チームで設計します。製作においては、コンピュータ制御の工作機械などを駆使し、自分たちで工程を検討しながら、部品製作を行います。部品の完成後は、組立・調整を行い、目標とした性能になっているかの検証や評価を行います。このように総合制作実習では、機械装置などを開発し、機能を満たすところまでを追及することで、ものづくりの達成感を噛み締めながら、高度で実践的な職業能力を身に付けます。

就職に際しては、学生は、教育訓練で取得した各種技能検定や、「コンピュータを駆使した最新のものづくり」による総合制作実習を通して身に付けた能力を、企業に積極的に説明しています。修了後は、実践的な技能・技術を活用して、自信を持って企業の第一線で活躍しており、関連就職率は、100%です。

また、修了後に、近畿職業能力開発大学校への進学者も年々増加しており、モノづくりを支えるエンジニアとして、各方面で活躍しています。